

よしきい

2021年 9・10月



目次

- 公園の風景
 - 君の名は 1
 - クチバシに注目 1
 - それって、虫こぶ!? 1
- きらら浜 蜂蜜物語 © 2
- みんなのひろば
 - 天文学的な話 2
- 活動紹介
 - 夏・子 終わる 3
 - シロチドリさん、いらっしゃい II 3
 - きらら浜生き物図鑑 制作中! 3

秋の夜に、ルールールールー……♪ 君の名は？

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= 君の名は =

夕方から夜にかけて、あちらこちらの草むらから虫の声が聞こえてくる季節になりました。実は虫たちは、日中はまだ暑さが続く8月の半ばあたりから鳴き始めます。チンチロリン♪と鳴くのはマツムシ。リーンリーン♪はスズムシ。ガチャガチャ♪と大音量で鳴くクツワムシ。鳴くといっても、2枚の翅をこすり合わせて音を出しているのですが、鳥と同じように、鳴くのは雄で大抵は雌に向けてのラブコールです。



ヒロバネカンタン 実物大

表紙写真は「ヒロバネカンタン」という名のコオロギ科の昆虫ですが、実際の大きさは10～20mmほど。低音でルールールールー……♪と鳴き、淡緑色の体と透き通ったガラス細工のような翅を持つカンタンが虫の中で一番美しいと公園レンジャーのWさんは言います。

カンタンという名前は元々は中国の地名で、はかなげな鳴き声と姿から人生のはかなさを例えた「邯鄲（カンタン）の夢」という中国の故事に由来するそうですが、虫を飼って楽しむことが多い中国と違い、自然のままを愛でる文化は日本独特のものようです。あなたも秋の夜長、虫の音に耳を傾けてみませんか。

= クチバシに注目 =

潮の引いた干潟を歩くシギの姿がよく見られるようになってきました。シギってみんな同じような色だし…と思われがちですが、一番の観察ポイントは様々な形の嘴。浅瀬でつまむ、泥に突き刺す、泥の表面をすさまじい速さでつつく、小石をひっくり返す…など、その形によって使い方も様々。この嘴はどうやって使うのかな？と想像しながら観察すると、楽しさも倍増です。



個性あふれる
シギのクチバシ

生き物にとって最も大事な食事に関する部分は進化しやすいと言われています。鳥にとって嘴は餌を採るための大事なパーツです。シギの嘴観察によって、干潟という一見単調な環境でも、違う餌を食べて他種との共存を可能にしている自然の懐深さを見ることができます。

= それって、虫こぶ!? =

公園の海岸に面した緑地帯にノブドウを見つけました。ノブドウは山野に生えるブドウ科ノブドウ属の蔓性の落葉多年草です。花は3mm程の淡い緑色の五弁花、実は径6～8mmの球形で始めは淡い緑白色からだんだんと紫色やピンク、青色などに変わります。

実が変形したこぶのようなものが樹木に付いているのをたまに目にすることがありますが、これは「虫こぶ」と呼ばれ、中に虫が入っています。ノブドウのカラフルな美しい色の実は、寄生昆虫による虫こぶとの説もあります。その説が正しいとしたら虫は何と素晴らしい仕事をしているのでしょ！



同じブドウ科でも食用にできる低木樹のヤマブドウと違い、草であるノブドウの実は鳥や野生動物専用。人間にはまずくて食べられません。根や茎葉は古くから漢方薬として利用されてきました。秋が深まる頃には葉が赤や黄色に染まり、紅葉も楽しめます。

きらら浜 蜂蜜物語 ⑥



夏も終わりに近づくと、女王バチの産卵が減少し、それまでどんどん増えていたミツバチの数が減り始めます。また、8月下旬から11月にかけては天敵のスズメバチがやってくるシーズンです。スズメバチは好物のハチミツだけでなく、子どもに与えるためミツバチや栄養たっぷりの幼虫をねらいに来るのです。スズメバチ数十匹に襲われると蜂群が全滅することもあるので養蜂家は気が抜けません。巣箱の入口に防除器を取り付けたり、それでも巣に入ろうとするスズメバチを叩き落としたりしてミツバチを守ります。

巣がダニの被害にあうこともあります。きれい好きなミツバチは、病気などで死んだ仲間は掃除係が巣の外に出してしまうので、入口に成虫や幼虫の死骸があれば要注意。中で異常が発生しているのかもしれない。早めに見つけ薬をかけたりして防除することが大切です。



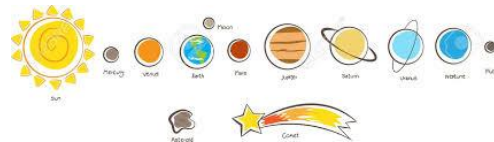
ミツバチの巣をねらうスズメバチ

こうして人間の助けを借りながらミツバチは冬越しの準備を始めます。晩秋になると女王バチの産卵はほぼ止まりますが、働きバチは冬の間の食料にする秋の花蜜や花粉を集めに出かけて行きます。春から秋、花のある時期の働きバチの寿命は1か月ほど(蜜集めの期間は外勤蜂となつてからの10日くらい)ですが、秋に生まれたミツバチは3~5か月生きて役割分担をこなします。

つづく

みんなのひろば😊

天文学的な話



ある地点までの距離は、速さと時間で表されるのは常識ですね。速さは、普通に体感できる最速のものは、ジェット機の時速800kmほど。これを超えるのは、まず音。秒速約331m、時速約1200kmで、これをマッハと言います。次に光。秒速約30万kmもあり、1秒間に地球7.5周するとても速い速さです。時速だと約10億8000万kmになり、普通に生活する限りでは必要のない世界でしょう。

しかし宇宙という空間を考えると、光速が基準となります。太陽系外の天体の場合は、光速でも一年(約9.5兆km)が最小単位となり、これを光年と言います。光年は距離を表しますが、ある天体の光は〇〇年前の光ということですので、時間を含んだ特殊な単位なのです。

現在確認されている最遠の天体は約134億光年だそうです。これをkmに換算すると、134億×9.5兆=1273000000000000000000000000(1273 垓:がい) km!!! 24桁なんて、まさに天文学的数字。134億年かけてたどり着いたというスケール感も壮大過ぎますね。

(T.W)



活動紹介

= 夏・子 終わる =

7月24日(土)に開催された「夏休み子ども観察会」は、比較的活動しやすい天候のもと、爽り多い早朝の3時間が過ごせたように思います。今年は自然と人間との共生をテーマとし、どんな表現をしたら子供たちに伝えられるか、個々のスタッフも課題を持っての取り組みとなりました。草木の名前を知り、アブラゼミとクマゼミの鳴き声を



聞き分け、チョウトンボのメタリックな色変の美しさに見入った子供たちの瞳はキラキラと輝いていました。最後に配布したアンケート用紙に書かれた、「来年も参加したいです」はこの日のために準備してきたスタッフへの最高の殺し文句でした。

<俳句教室優秀作>

= シロチドリさん、いらっしゃい II =

機関紙 111号でお知らせした、シロチドリの繁殖のための「中の島再整備計画」では、5月、6月とヨシの根っこ抜き作業が実施されました。木陰のない中の島での夏場の活動は自粛すべしとなり中断状況となっておりますが、9月からの再開を予定しています。何分にも「ウィークディの干潮時、なお且つ担当レンジャーの出勤日」という縛りがありますが、会員の皆様のご参加を期待いたします。人力が頼みの作業です。



公園のパラダイス?中の島アイランド

ご協力よろしく申し上げます <m()m>

・
び
よ
ん
び
よ
ん
と
ど
び
は
ぜ
躍
ら
せ
浜
散
歩
カ
ツ
子

8月

= きらら浜生き物図鑑 制作中! =

普段何気なく歩き回っている公園内ですが、ちょっと足元を見れば意外と知らない生き物がたくさんいることに気付かされます。こんな時ぱっと調べられる手軽な図鑑があったらなあ…。会員たちのそんな思いからこのプロジェクトは始まりました。

折しも来年、葦の会は創立20周年を迎えます。その記念事業として「公園で見られる生き物図鑑」を作ることにしたのです。主な活動内容は、過去の記録整理と、園内を歩き回っての生息確認。専門家ではない会員たちが四苦八苦しながら手分けして作業を進めています。レンジャーさんのお力添えもあるので知識量は増えているはず?

果たしてどんなものが出来上がるのか…来年に無事発刊できるのか…。

<編集後記>

県のコロナ対策により、9月に予定されていた公園行事も、ボランティア説明会も中止になってしまいましたが、葦の会では10月末に予定しているふれあいまつりを、どう密を避けながら楽しんでもらえるかに知恵を絞っているところです。ともかくも無事に開催できますように!

(nimu)